

辯護側文書二百七十九號

一九三一年（昭和六年）七月一九日「ジャパンクロンクル」の記事抜萃

奉天にて朝鮮事件解決ニ努力

朝日新聞に依れば奉天日本總領事林氏は本月一六日に張學良將軍の病氣引龍中を會見し、瀋洲に於ける朝鮮農民の檢舉停止及朝鮮農民に對する居住権の確立の爲の協議の開始を提案した。

氏は、斯る問題の解決に對する暫定的協定の締結に對する本國政府の希望を示した。氏は更に提案して、本問題の地方的性格に鑑み、日本當局と、地方當局間に協商を開く可きであると。氏は中國側に依り定められた中の協商の基本條件に反対してはゐない。

之に答へて、張作相將軍は中國政府は、交渉の早急なる開始を望む日本政府の要求を受け容れ併せて、過去に於て本問題に關しては張學良將軍と繰り返し協議せる旨を日本總領事に確言した。奉天當局は又日本當局とその見解を同じくする點は斯る問題は地方的に解決せらる可きであると云ふ事である。將軍は、しかしながら、正式の協商は張學良將軍の現在の病氣回復迄延期すべきものなる旨を述べた。

林氏は、最近の不幸なる事件とは何等關係なき方法に於て、日本政府は公正と和平の精神を以て兩國間の懸案の一切を處理する政策を固守する決意なることを更に張將軍に告げた。

本會見の結果、吉林駐在日本總領事石井氏と在ハルピン中國側外交部長達氏との間に近々非公式の協商が開かるる筈。本協商に於ては先づ、乃賓山事件解決の方法が商談せられ、次いで他の問題に關する討議が行はれることになつてゐる。